

まちを育てる人を育てる



特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・リタ

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町字3丁目6-6

TEL (0564)23-2888 FAX (0564)23-2898 E-MAIL info@okazaki-lita.com



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・リタ



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・リた

も く じ CONTENTS



2. りたの理念



3. りたが持つ専門性



5. りたのあゆみ



7. 「私」と「まち」を結ぶ



9. 地域の活力を高める



11. 地域の資源を活かす



13. 地域の課題を解決する

略称・略語一覧

りた：岡崎まち育てセンター・りた

OCDC 研：岡崎 Community Development Corporation 研究会

りぶら：図書館交流プラザ・りぶら

なごみん：北部地域交流センター

よりなん：南部地域交流センター

やはぎかん：西部地域交流センター

むらさきかん：東部地域交流センター

悠紀の里：地域交流センター六ツ美分館

WS：ワークショップ

主な事例紹介



— 空洞化の進む密集市街地の再生 —

松應寺横丁まちづくり協議会（旧・松應寺横丁活性会議）

事業名：松應寺横丁まちづくり

期 間：2011 年～継続中

発注者：自主事業

（2012 年度 愛知県「新しい公共支援事業」の補助金を活用）



企画立案

アンケート・ヒアリング

資金調達支援

組織設立支援

江戸時代は松應寺の門前町として、明治後期から昭和中期までは花街として栄えた松本町。レトロな風情漂う松應寺横丁では、2011 年当時、半数以上の 19 軒が空き家となり、老朽化も進行していました。その後、「松本なかみせ亭」の開設を皮切りに、空き家マッチングに着手し、「あいちトリエンナーレ 2013」の展示会場はじめ、これまでに延べ 14 軒の空き家活用が実現。地域ぐるみの高齢者支援の活動も活発になっています。知る人ぞ知る存在だった松應寺横丁も、今ではドラマや映画のロケ地に選ばれたり、市政だよりの表紙を飾るなど、市内外から注目を集める存在になっています。



※松應寺横丁まちづくり協議会として受賞

— 空き家を活用した地域の拠点 —

松本なかみせ亭の設立・運営

事業名：新しい公共支援事業・運営

期 間：2012 年～継続中

発注者：松應寺横丁まちづくり協議会（自主事業）



横丁内の空き家所有者の調査や交渉、改修プランの作成、資金調達などを支援して生まれた、喫茶と手づくり雑貨を販売する空き家活用の第 1 号。地域の常連さんと横丁を訪れる人の交流拠点になっています。

企画立案

担い手の発掘

— 外出・交流・見守りを兼ねた —

独居老人向けお弁当サービス

事業名：松本町包括ケア支援事業

期 間：2014 年～2017 年、
2019 年～継続中

発注者：松應寺横丁まちづくり協議会（自主事業）



買い物や食事の準備が困難な地域の高齢者を対象とした会員制弁当屋の企画立案と開設を支援。営業時間を週 1 回、1 時間のみとし、担い手の負担を抑えると共に、高齢者の外出・交流機会の創出と安否確認を兼ねています。

企画立案

試験的実践支援

— 地域でできる介護予防を促進する —

地域包括支援センターの支援

事業名：生活支援体制整備事業

（第 1 層）業務

期 間：2018 年～継続中

発注者：岡崎市長寿課

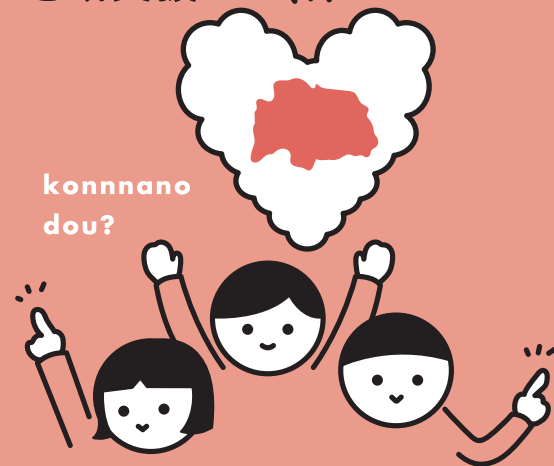


高齢者支援の現場もまた、人手不足が深刻です。りたの会議ファシリテーションのノウハウや地域支援の経験を活かして地域包括支援センターと連携し、地域が主体的に行う介護予防の取り組みを推進しています。

会議ファシリテーション

試験的実践支援

地域の課題を解決する 地域支援



人口縮小や超高齢化社会の到来により地域課題は益々深刻かつ複雑化しています。一方で、地域コミュニティの衰退など地域の課題解決力が下がっている現実もあります。これからは、地域住民が主体となり、ボランティアやNPO、事業者や行政とも協働して地域の課題解決を進める、新しい発想や方法が重要です。

りたは、こうした多様な主体と協働して進めるまち育てに向けて、進め方やネットワーク形成に関するアドバイスや支援をしています。

interview!



松應寺住職 服部 善樹さん

松應寺境内でりたスタッフに偶然声をかけたことがきっかけとなり、松應寺横丁のプロジェクトが立ち上がった。

「りたは利他」その一言から付き合いが始まり、約十年。助言を基に活動した結果、廃墟に生命が再び吹き込まれ、夜の町は、昼の町に変貌しつつあります。しかし、”昭和レトロ”な街並みという物珍しさから集客があるのも現実です。今後は、家康公創建という寺本来の歴史・由緒を活かしたうえ、地元さらに密着したまちづくりを期待します。

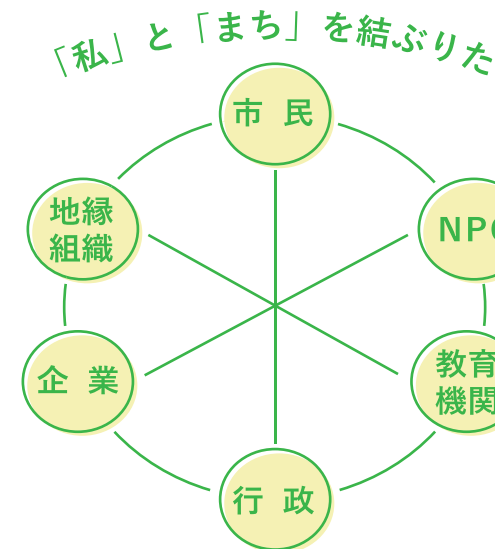
岡崎市中心市街地の北側に位置する松本町では、空き家の増加や少子高齢化が進行していました。そこで2011年に町内会、松應寺、りたなどからなる「松應寺横丁活性会議（現・松應寺横丁まちづくり協議会）」を設立し、住民対象のアンケート調査をもとにした「松本町にぎわい基本計画」を策定しました。同年秋には「松應寺横丁にぎわい市」を実施し、2012年には、食事や喫茶を楽しめる地域の新たな交流拠点「松本なかみせ亭」の開設・運営を支援しました。また2013年には、これらの取り組みから派生した「松本町包括ケア会議」を発足。町内会、老人会、民生委員、地域包括支援センターと連携して高齢者の暮らしのニーズの調査を行い、買い物難民化が深刻になっていることを把握しました。以後、外出機会を損なわず、見守りを兼ねた会員制弁当屋の開設、定期的な高齢者の会食会の実施、高齢者の居場所となるサロンの開設など、地域ぐるみの活動の立ち上げや運営を支援しています。

こうした取り組みが評価され、現在、地域包括支援センターと連携し、地域が主体となった高齢者の介護予防や健康増進を支援する取り組みを促進しています。

今後も、りたは丁寧に地域の資源を掘りおこし、顕在化したニーズや課題に対して地域内外の担い手をつないで、地域課題の解決に必要な力を育む地域支援に注力していきます。



日本は急激な速度で人口減少が進むと同時に、少子化、超高齢化、防災、福祉、環境といった多様な社会問題が顕在化しており、行政のみで対応することの限界が指摘される一方で、社会サービスの新たな担い手として、市民や企業への期待が高まってきました。こうした変化を踏まえて、りたは「市民、市民団体及び企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、協働型社会づくりを促進すること」を目的として掲げ、設立されました。



人口減少、少子化、超高齢化、
防災、福祉、環境などの社会問題

地域活力を高める

地域資源を活かす

地域課題を解決する

協働型社会

市民自治
新しい公共
持続可能な社会

りたは「市民自治」の観点から地域自治と多様な市民活動を支援し、連携・協働を進めるために積極的な役割を果たすこと、そして「新しい公共」の理念を社会に浸透させ、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めることが使命です。まちが持続可能であるためには、暮らす人のまちへの関わりや愛着が必要不可欠と言えますが、いつからか私たちは、まちのことを行政頼み、人任せにすることが当たり前になり、まちとの関わりが希薄になったことで、まちへの愛着を持ちづらくなったと考えています。このため、りたは「私」と「まち」を結ぶ、ということ活動を活動の根幹に据えています。

「岡崎まち育てセンター・りた」の名称には2つの考え方を込めています。一つは、まちを作ることに主眼がおかれる「まちづくり」に対して持続的に育み続ける「まち育て」の言葉を採用しました。もう一つは愛称の「りた」。これは仏教用語「利他」を引用し「お互いさま、お陰さまの精神で他者に向き合うことなしに、人や自然や歴史の集合体であるまちを良くすることは出来ない」という思いを表現しています。

りたが展開するまち育ての詳細は、次項以降をご覧ください。

りたがもつ専門性

LITA's Skill

りたは、地域や活動主体の機運を高めるための〔①調査・啓発〕、ファシリテーションの技術を用いた合意形成を基にした〔②計画・活動づくり〕と〔③体制づくり〕、社会的ネットワークを活かした〔④協働促進〕の4つの専門性をもっています。

4つの専門性

12のメニュー

①調査・啓発

地域にどんな特徴や課題があるのか、どんな担い手や活動があるのかを調査し、潜在的な地域の資源を見える化します。

- ✓ 情報収集・アーカイブ
- ✓ アンケート・ヒアリング
- ✓ 学習機会の提供

②計画・活動づくり

ファシリテーションの技術や場や意見の異なる人の対話の人々の思いを引き出し共有合意できるまち育てのビジネスアイデアを創り出す支援

- ✓ 企画立案
- ✓ 会議ファシリテーション
- ✓ 計画策定支援

機運醸成

あまり認識されていないような地域の価値や大切なものを掘り起こし、共有することで、まちへの愛着や関心が高まります。

合意形成

目的や計画を考える共同で立場を超えた相互理解立から対等へ、不信から信頼が高まります。

効果

りたが提供する事業フレーム

「私」と「まち」を結ぶファシリテーション

市民、行政、事業者の間に建設的な議論の場を設け、協働へとつないでいきます。市民意見が反映された愛着のある公共空間や地域を育みます。

詳しくは7、8ページへ



地域の活力を高める拠点運営

市民活動・地域活動の拠点運営を通じて、「担い手が不足している地域」と「新しい地域の担い手」をつないで、地域の活力を高めます。

詳しくは9、10ページへ



岡崎市内における協働型まちづくりへの支援実
アドバイザー・コーディネーター派遣、事業委

近年の実績

- ・NPO と行政の協働に関
- ・市民協働の行政担当者
- ・安城市市民参加推進評
- ・「蒲郡市における協働の
- ・まちのかたり場～こま
- ・扶桑町まちづくり入門

主な事例紹介



—— 水辺を使いこなすことで、川の価値を再発見 ——

おとがワ！ンダーランド

事業名：乙川リバーフロント地区かわまちづくり支援事業
発注者：岡崎市乙川リバーフロント推進課

期 間：2016 年～2017 年
※2018 年より、おとがワ！活用実行委員会として実施



企画立案 担い手の発掘 試験的実践支援



現在、全国各地で河川空間を有効活用する「かわまちづくり」が推奨されていますが、いざ使うとなると、様々な障壁にぶつかります。初動期のおとがワ！ンダーランドでは、前例のない使い方も多く、河川や道路の管理者、警察、保健所、消防署などの公的機関や、近隣住民および町内会との調整に奔走しました。

2018 年には、本事業に関わる主要な事業者の方々と「おとがワ！活用実行委員会」を設立。乙川の利活用を通じて見えてきた上流とのつながりや、まちなかを流れる乙川の価値を大切に作る取り組みが生まれてきています。

—— 伝えたい想いに魅力が宿る —— 岡崎百景

事業名：岡崎百景選定事業
（市制 100 周年記念事業）
期 間：2014 年～2016 年
発注者：都市計画課



次世代に伝えたい「岡崎の今」を表現する景観を選定。百景の候補を挙げる推薦人の募集、122 の景観を選定した市民投票の運営、本にまとめて発行する作業などを支援し、地元岡崎の魅力を発信しました。

企画立案 担い手の発掘

—— 公園の可能性を引き出す —— 公園愛護運営会

事業名：公園利活用ニーズ調査事業
期間：2017 年～継続中
発注者：岡崎市公園緑地課



針崎東町、岩津町、大西 2 区にて、住民による公園運営の新たな仕組み「公園愛護運営会」の設立を支援。町内会や老人会、子ども会やボランティア、商店街関係者などが協力し合って豊かな公園活用を実践しています。

担い手の発掘 会議ファシリテーション

—— 地域による、地域のための —— 情報が詰まった 岡崎まちものがたり

事業名：岡崎まちものがたり作成事業
（市制 100 周年記念事業）
期 間：2015 年～2016 年
発注者：岡崎市 100 周年記念事業推進課



岡崎市の 47 小学校区ごとに地域を紹介する 8 ページの冊子と、それを 1 つにまとめた全 400 ページの記念誌の作成を支援。地域住民が掲載内容の検討や精査をすることで、住民が地元の魅力を再評価する機会となりました。

企画立案 会議ファシリテーション

地域の資源を活かす まち育て



地域には、歴史や文化、自然環境、暮らしなど、その場所ならではの資源があります。しかし、そこに住み慣れた人々にとってそれは当たり前の存在となり、その意味や価値を見過してしまうことがよくあります。そこでりたは、地域の皆さんと共に地域資源を改めて探すところから始めます。その過程を通じて地域資源を活かす仲間も掘り起こします。そうした思いを持った方々と共に地域資源を活かす（魅力を伝える、活用する）ことで、誇りや愛着を持ってまちに関わる人を増やしています。

interview!



一般社団法人「奏林舎」代表理事 唐澤 晋平さん

乙川の上流部・額田地区において、地域に根差した豊かな森づくりに携わる。おとがワ！ンダーランドでは、乙川を介して森とまちをつなぐプログラムに参加。

おとがワ！ンダーランドの準備段階のころから上下流で連携をして一体的に盛り上げていきたいとお声がけいただき、額田産の丸太をキャンプ用に納めたり、イベントで薪割体験やドラム缶風呂をしました。市内各地で様々なまちづくりが進む中で、今後さらに地元の木を使うことの意義を発信し、まちなかに木のぬくもりにあふれた空間が増えていくことを期待しています。

本来、市民が自由に使えるはずの公共空間は、「みんなの場所」であるがゆえに、互いに迷惑がかからないように、あるいは安全を守るために、といった理由から制約が増えていき、かえって使いづらくなってしまったり、使われなくなってしまうことが多々あります。

りたが事務局を務めた社会実験「おとがワ！ンダーランド」では、公的な大規模イベント以外では使われなくなっていた乙川河川敷を大切な資源として捉えなおし、市民団体や事業者に働きかけて、いろいろな使い方を試行錯誤。水辺活用の専門家とも連携し、一元化されていなかった様々な規制やルールの整理を進めると同時に、乙川ならではの使い方を模索してきました。今では市民自ら使いこなし、新しい過ごし方や楽しみ方を生み出したり、上流とのつながりから川の価値を見直し、魅力を高める活動が広がってきています。

そのほか、「あたりまえ」の風景の大切さに着目し、市民から推薦人を募っておすすめの景観を選定した「岡崎百景」の企画・運営、市民がより主体的に公園の活用・管理を担う「公園愛護運営会」の仕組みづくりや、地域の歴史や魅力を地域住民が紹介する記念誌「岡崎まちものがたり」の編集支援を行いました。

こうした活動を通じて、特別な催しや仕掛けがなくても、市民自らが日常的な暮らしの中で地域資源を磨き、楽しみ、そうした光景自体ががその場所の魅力になっていくことを目指しています。

績は市外の市町村からも高い評価を受けており、各種委員会への委員派遣、研修講師派遣、まちづくり事業の託の依頼が増えています。

する実務者会議委員（愛知県）
向け研修講師（豊明市、半田市）
価会議の研修会講師（安城市）
まちづくりの方向性」を考えるワーキングメンバー（蒲郡市）
き未来ビルダーズ～講師（小牧市）
講座講師（扶桑町）

・輝けサスティナ研究所コーディネーター（愛知県）
・愛・地球博記念公園マネジメント会議コーディネーター（愛知県）
・豊橋市緑の基本計画策定委員（豊橋市）
・蒲郡市協働まちづくりモデル事業人材育成講座実施業務（蒲郡市）
・名古屋駅西地区まちづくり推進会議部会運営業務（名古屋市）
・駒場公園（仮称）検討会プログラム企画業務（名古屋市） など

まちづくり

を用いて、立
の場をつくり、
し、みんなが
ョンや活動の
を行います。

ビジョン

作業を通じ
を生み、対
信頼の関係

③体制づくり

人々が描いたビジョンやアイディアに基づいて、担い手の発掘、活動の立ち上げ・実践を支援し、関わる人同士の輪を広げ、活動に必要な体制や仕組みづくりにつなげます。

- ✓ 担い手の発掘
- ✓ 試験的実践支援
- ✓ 組織設立支援

主体形成

思いを形にする試験的実践等を通じて、小さな成功体験を生み、関わる人の当事者意識とチームワークを高めます。

④協働促進

まち育ての活動に必要な人（個人・市民団体・企業・公共機関等）、ものの、金、場所、情報といった社会的資源を結びつけることで、活動の推進力を高めます。

- ✓ マッチング
- ✓ 資金調達支援
- ✓ PR・プロモーション支援

活動の活性化

より多くの人が関わるようになり、共感の輪が広がることで、社会的インパクトが大きくなることに加え、活動自体の価値が高まります。

地域の資源を活かす まち育て

地域の皆さんと共に
地域資源を改めて探し、
その過程で地域資源を
活かす仲間を掘り起こします。そうした仲間と共に
地域資源を活かし、魅力を発信します。

詳しくは 11、12 ページへ ➡

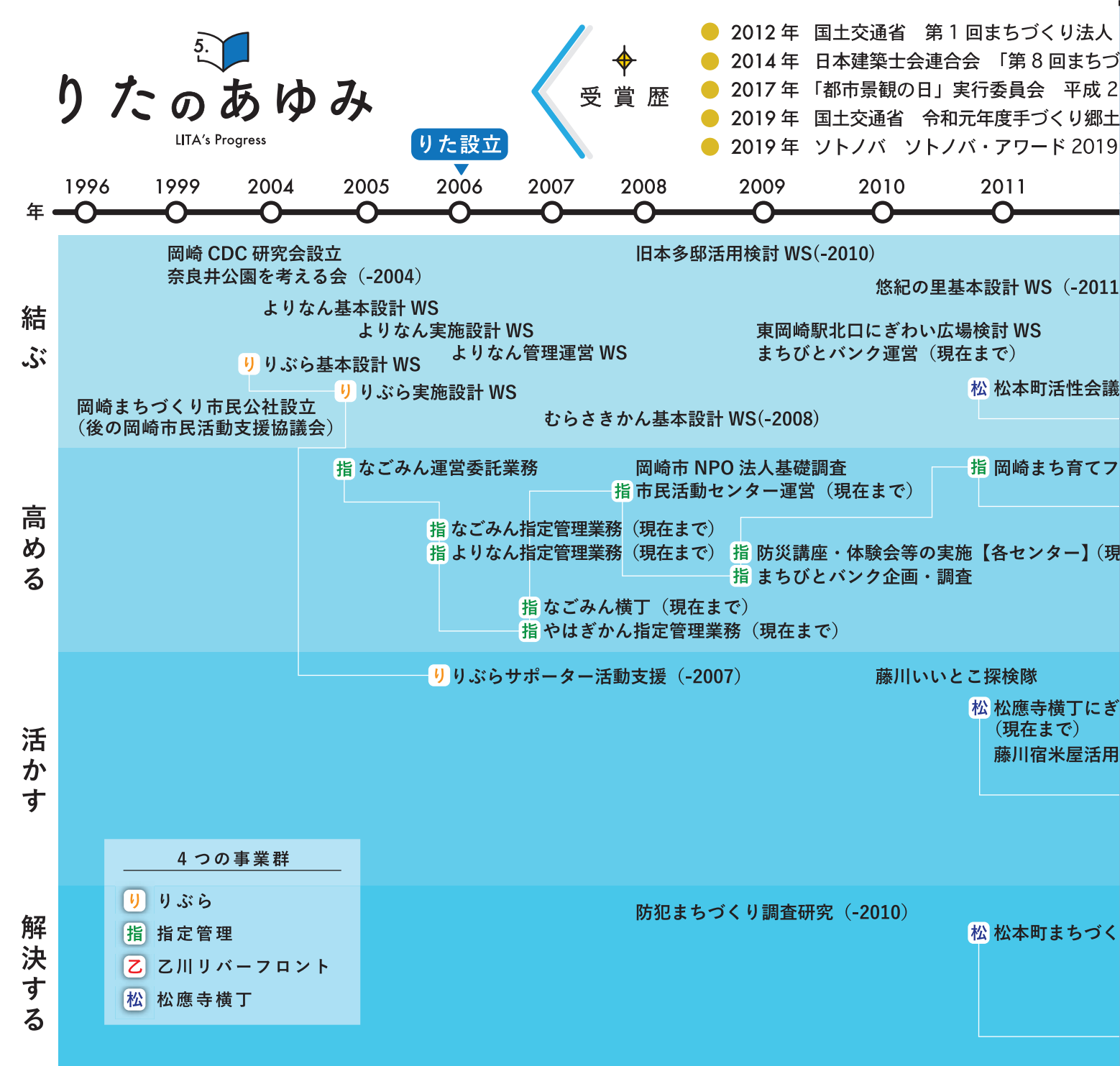


地域の課題を解決する 地域支援

まち育ての進め方をアドバイスし、
地域住民が主体となり、
ボランティア、NPO、
事業者、行政とも協働し
て、地域の課題を解決する活動の推進を図ります。

詳しくは 13、14 ページへ ➡





地域の活力を高める 拠点運営



高齢化や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化などにより、従来地域を支えてきた担い手不足が深刻になってきています。一方で、市民団体やNPO、社会貢献に積極的な企業・ボランティアなど、新しい地域の担い手も現れてきました。

りたは、5つの「地域交流センター」とりぶら内の「市民活動センター」の計6つの市民活動・地域活動の拠点運営を通じて、「担い手が不足している地域」と「新しい地域の担い手」をつないで、地域の活力を高めるお手伝いをしています。

なごみん横丁 OG・OB のみなさん

初代なごみん横丁長を務めた



大学生
月東 更紗（さらさ）さん

横丁用食堂や財布屋の
出店で活躍した



会社員 月東 大河くん

横丁創世期の
イラスト作成で活躍した



大学生
五反田 彩乃（あやの）さん

財布屋を出店や
横丁警察でも活躍した



大学生 五反田 航希くん

「食堂をやりたい」という子どもの希望に対し、りたは保健所、商店街の人、近所の住民と調整してくれました。大人になって振り返ると、子どもの自由な発想や発言にNGを出すことなく、可能性を探ってくれたことがうれしかったです。横丁での経験は自立心を培ってくれたし、受け身でなく社会と関わるようになりました。

なごみんで毎年夏に開催される「なごみん横丁」は、地元の商店街や教育機関など地域ぐるみで行う創造的学びの場であるとともに、多世代のボランティアの受け皿としても定着しています。ここ最近では、以前横丁の住民として参加していた子どもが成長して運営ボランティアとして帰ってくるなど、ボランティアを支える仕組みが年を追うごとに成熟しています。

また、なごみんを含む全ての拠点施設において「まちびとバンク」を運営しています。これは、「何かやりたい、始めたい」「役に立ちたい」というボランティアニーズと、人手不足に悩む市民団体や地縁組織を結びつける仕組みです。今では、提供できる物資を募り公益活動を行う団体にマッチングする「もののバンク」も一部稼働しています。

さらに、常に地域の情報にアンテナを張り、定期的に発行する「情報誌」などで地域のために活動する団体・個人や、知る人ぞ知る伝統行事や歴史・文化などの地域資源を収集・発信・蓄積することに努めています。こうして拠点施設に蓄積された地域資源（人・もの・情報・場所）と直接触れ合い、つながることのできる場「地域活動の報告交流会」も開催しています。

このように、りたが拠点運営を通じて掘り起こした様々な地域資源や築いてきた社会的ネットワークは、地域の活力を高めるために欠かせない原動力となっています。

『まちづくりの担い手サポート部門』国土交通大臣賞

くり賞」 ※松應寺横丁のまちづくりの取組に対し、松應寺横丁まちづくり協議会（りた参加）が受賞

9年度都市景観大賞『景観まちづくり活動・教育部門優秀賞 ※市制100周年事業「岡崎百景 一私とまちの100のドラマー」が受賞

賞『グランプリ（一般部門）』 ※おとがワ！ンダーランドの取組に対し、おとがワ！活用実行委員会（事務局＝りた）が受賞

『プロジェクトデザイン部門賞』 ※おとがワ！ンダーランドの取組に対し、おとがワ！活用実行委員会（事務局＝りた）が受賞



乙 乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン業務（現在まで） 本宿まち点検 WS
乙 岡崎デザインシャレット
乙 まちづくりワークショップ
乙 まちのトレジャーハンティング@岡崎
乙 社会実験「MeguruQuruwa」

設立・運営支援（現在まで）

松 松應寺横丁（松本町）のまちづくり

松 松應寺横丁まちづくり発展会
設立・運営支援（現在まで）

エスタ（-2018）

指 むらさきかん指定管理（-現在まで）

（現在まで）

乙 情報発信業務（-現在まで）

乙 シンポジウム企画・運営（-現在まで）

岡崎まちものがたり（市制100周年事業）（-2016）

チャレンジ100（市制100周年事業）（-2016）

まちなか景観基礎調査
「景観手帳」作成

指 悠紀の里指定管理（-現在まで）

わい市

WS

岡崎百人百景
まちなか案内ガイド「みちくさ」企画運営
まち歩きマップ「Okazaki みちくさ案内図」作成

乙 おとがワ！ンダーランド（-2017）

乙 「殿橋テラス」社会実験（-2019）

観光客対応力醸成業務 / オカザキデザイングッド

公園利活用ニーズ調査（-2017）

乙 QURUWA
菜園運営支援

公園愛護運営会設立支援

乙 おとがワ！活用実行委員会

事務局運営支援

岡崎カメラがっこう運営支援

乙 連尺通り生活社会実験

藤川景観まちづくりファンド調査

藤川案内人育成講座

松 松本なにかみせ亭開設

松 松應寺横丁の空き家活用支援

百景大撮影会

岡崎百景（-2016）

乙 岡崎市リノベーション

まちづくり実行委員会運営支援

“O”になる岡崎

まちものがたり

（-2018）

リアンケート

松 会員制見守り弁当屋開設・運営支援（現在まで）

松 松本町境界の高齢者支援

地区防災計画策定（-2016）

防災マップ作成支援（-2018）

松 松本町包括ケア会議発足・運営支援（現在まで）

松 お年寄りの暮らしのニーズ調査

地域包括支援業務

乙 籠田公園運営検討 WS

乙 籠田公園運営体制検討業務

本宿4町全住民アンケート

実施支援

乙 中央緑道周辺町全住民

アンケート実施支援

14

年の歴史を振り返ると、りたに期待される役割が変化していることがうかがえます。当初は行政が市民の声を取り入れるためのWSの企画運営（＝結ぶ）や、公共の拠点施設の市民目線での管理運営（＝高める）などが中心でしたが、最近では、公共空間を活用するための市民主体の体制構築（＝活かす）や、地域課題を解決するための住民主体の体制構築（＝解決する）と、その役割は広がり、深まっています。これはりたが蓄えてきた、ボランティア、市民活動団体、NPO、事業者とのつながりが、まち育てを推進する大きな力であること、また「市民がまちに関わるまちづくり」の考えが徐々に浸透していることの証しといえます。りたは、これからも中間支援組織として、市民が主体的に関わる”まち育て”を進めていきます。

※1：OCDC 研：住民参加型まちづくりの研究・実践を共通点に、岡崎出身の2人の大学生（現事務局の三矢、天野）が偶然出会い、意気投合したことでも始まった自主グループ。積極的に地元有志や岡崎市職員に働きかけながら、まちづくり講演会の実施、市民参加の「奈良井公園を考える会」の運営などを行い、活動の足掛かりを築きました。

※2：市民公社（正式名称・岡崎まちづくり市民公社）：「市民自治の実現」を旗印に、岡崎市内の総代会連絡協議会、学区社会教育委員長連絡協議会、学区福祉委員会、社会福祉協議会、青年会議所といった岡崎市を代表する地縁団体や福祉団体など約50の地域活動団体が結集。市民活動団体向けの講座や交流会などを開催し、岡崎市の市民活動の促進に寄与していました。



市民、市民活動団体、事業者、行政を結びつけ、多様な主体の協働を促すことが、りたの役割です。例えば、りたは公共空間（公園、図書館、道路）の計画や運営を巡り、市民と行政の間に建設的な対話の場を設け、協働へとつないでいく取り組みを法人設立当初から進めてきました。りたが対話の場づくりに向けて、プロセスや参加者、話し合いの切り口を適切に設定することにより、その地域ならではの創造的な意見や提案を引き出していきます。

公共空間の計画に市民意見が反映され、出来上がった施設の運営においても市民が参加することで、市民に愛される公共空間を育んでいます。

interview!



りぶらサポータークラブ初代代表（現メンバー） 山田 美代子さん

りぶらワークショップ（WS）に参加し、りぶら関連の活動に積極的に携わる。託児グループ「りぶらっこ☆ふぁみりー」でも活躍。

りぶら WS では市民と行政と事業者が話し合う場で、専門知識の無い私たちに建築の意図をわかりやすく解説してくれたり、年代や立場の異なる参加者の要望を細やかにまとめたりしてくれました。WS 終了後も、市民や民間の団体が多く関わる「りぶらまつり実行委員会」の運営・仕組み作りへのサポートもありがたかったです。

これが実現した記念碑的プロジェクトが、2004 年に始まった「康生地区生涯学習拠点施設整備」でのりぶらの計画プロセスでした。「りぶらワークショップ」に建設的な対話の場を生み出したことで、参加者に「自分たちの提案を行政に任せるのではなく、自分たちで実現したい」という意識が生まれ、市民自らがりぶらのソフトを提案・実現する「りぶらサポータークラブ（LSC）」の設立につながりました。この市民の公共施設の計画から運営にいたる積極的な参加は、りたが目指してきた「新しい公共」の形を体現しています。これらの経験は、歩道や広場などのりぶらの周辺整備、中心市街地の再生計画にも市民と行政の対話の場を開くきっかけにもなりました。

一連の取り組みは「施設設計をテーマに市民と行政、専門家（建築設計士ら）との対話の場を開き、一致点を導く”合意形成”」「施設運営に向けて市民自らが活動を起こし、グループを組織する”主体形成”」「公共施設や歩道、広場、まちづくりをきっかけとして多様な主体を巻き込み、新たな連携を生み出す”協働促進”」など、りたの専門性が存分に発揮されたプロジェクトでした。こうした取り組みが前例となり、市内の公共施設・空間の計画や運営に市民参加の手法が用いられるようになりました。

主な事例紹介



—— 市民参加による公共施設の計画づくり —— りぶらワークショップ

事業名：康生地区生涯学習拠点施設基本設計
ワークショップコーディネート業務

期 間：2004 年～2005 年

発注者：康生地区拠点開設準備室



会議ファシリテーション

計画策定支援

学習機会の提供

「市内全域の生涯学習の活性化拠点」と「中心市街地の再活性化拠点」の二つの役割が与えられた「岡崎市図書館交流プラザ・りぶら」。りたは、この施設の設計に市民の声を反映するワークショップを運営しました。「こんな施設になったらいいな」という夢を語り合う場や、実際に建設予定地を見て敷地およびその周辺を活かす方法を語り合う場、施設の間取りや設備のあり方について語り合う場を企画運営することを通じて施設設計に市民の意見を反映しました。実際に、集いや憩いの空間が整備されるなど、市民目線の工夫が見られます。

—— 公共サービスを市民が担う —— りぶらサポータークラブ (LSC)

事業名：りぶらサポーター活動支援
業務

期 間：2006 年～2007 年

発注者：康生地区拠点開設整備室



りぶらワークショップに参加した市民有志の意識が高まり、りたが設立を支援して結成。りぶら講座などの企画運営、情報誌の発行、散策 MAP の作成、託児サービスの提供など、ソフト面の企画でりぶらを支えています。

担い手の発掘

組織設立支援

—— 公共空間を使いこなせ！ ——

乙川 RF 地区のまちづくり

事業名：乙川リバーフロント地区
かわまちづくり支援事業

期 間：2016 年～継続中

発注者：岡崎市乙川リバーフロント
推進課・都市施設課



名鉄東岡崎、乙川、りぶら、籠田公園等からなる乙川リバーフロント地区の約半分を占める公共空間の活用促進のため、りたは施設管理者である行政とも調整して従来できなかった活用方法を試験運用しています。

計画策定支援

試験的実践支援

—— 横断的な町内会連携が実現！ ——

籠田公園運営体制検討業務

事業名：公園協議会設立支援業務

期 間：2018 年～2019 年

発注者：岡崎市乙川リバーフロント
推進課・公園緑地課



公園の再整備にあたり「籠田公園との関わり方を考えるワークショップ」を開催。籠田公園の盆踊りの復活に向けて 7 つの町内会が連携したことを機に、町内会連合体「7 町・広域連合」が設立され、新旧担い手の受け皿となっています。

会議ファシリテーション

マッチング